

科目名称	母性看護学実習
授業コード	BK359
英語名称	Maternity Nursing practice
学期	2024年度後期
単位	2.0
担当教員	今野 友美, 藤井 美穂子, 長田 知恵子
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	母性看護学実習では、母性看護の機能と役割を理解し、妊娠期・分娩期・産褥期にある女性および新生児の特徴を観察し、その順調な経過を促進する援助の実際について学ぶ。主に褥婦および新生児を受け持ち母児の看護過程を展開し、ウェルネスの視点に基づいた看護援助を学ぶ。また、地域における母子および女性を取り巻く地域施設における現状を理解し、看護実践ならびに看護職の役割について学ぶ。
科目に関連する実務経験と授業への活用	看護師を目指す上で必要な周産期の主な対象である妊婦（胎児）・産婦・褥婦・新生児とその家族への援助の実際について、実習施設の助産師、看護師、産科医である実習指導者および看護師・助産師として臨床経験のある担当教員が協働して指導にあたる。
到達目標	<p>当科目はディプロマポリシーに示された「科学的な根拠に基づき、対象者の健康と生活の質を高める看護を実践するための論理的思考力、基本的な問題解決能力を修得している」「高度化・複雑化する医療に対応し、看護実践する専門的知識・技術を有している」「対象者の様々な権利や人権を尊重し、看護専門職として倫理的な行動がとれる」の実現のため、カリキュラムポリシーに示された「多様な健康レベルや生活状況を考慮し、人間関係を形成しながら看護実践を学ぶために臨地実習科目を配置する」方針のもと以下の5つを目標としている。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1．妊娠期・分娩期・産褥期にある女性および新生児の特徴を理解し、アセスメントを通して正常な経過を促進する援助について理解できる。</li> <li>2．妊娠・分娩・産褥各期および退院後の支援から看護の連携について、家族を含めた母性看護の役割・機能を理解し、社会資源の活用について考えることができる。</li> <li>3．生命の尊重およびプライバシーの保護、守秘義務などの倫理に関する理解を深め、看護者としての姿勢について考えることができる。</li> <li>4．生命の誕生・尊厳について考え、母子相互作用や母親役割獲得過程の理解を通して自己の親性観を深めることができる。</li> <li>5．地域における母子保健活動ならびに女性、男性、多様な性への支援における実際を理解し、保健医療福祉における看護職の役割を考えることができる。</li> </ol>
計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1．実習期間 2024年9月24日（火）～ 2025年2月21日（金） 上記期間内で、1クール2週間（90時間）の実習を行う。 2週間の実習の内訳は、病院実習、臨地実習、実習のまとめ等を計画している。詳細は7月の領域別実習オリエンテーションで説明を行う。</li> <li>2．実習施設 病院実習 東葛病院 東京女子医科大学附属足立医療センター 東京北医療センター 東京ベイ・浦安市川医療センター その他関連施設 地域実習 ひな助産院、愛助産院、助産婦石村などの助産院</li> </ol>

計画・内容	<p>子育て支援施設 男女共同参画のための総合的な施設など</p> <p>3. 実習方法 母性看護学実習の目的・目標に基づき母性看護学実習を行う。 詳細は、母性看護学実習要項を参照。</p> <p>4. 担当教員 ・看護師・助産師として臨床経験のある母性領域の教員である藤井・長田・今野が、グループ毎に2週間継続して実習を担当する。 ・状況により、周産期施設において看護師・助産師として臨床経験のある非常勤教員が臨地における指導を担当する場合もある。</p> <p>実習施設および担当教員についての詳細は、7月の領域別実習オリエンテーションおよび実習開始前の直前オリエンテーションにて発表する。</p>
授業の進め方	<p>1. 領域別実習オリエンテーション 母性看護学実習概要について、健康診断書の提出について伝達する。</p> <p>2. 7月下旬(予定) 領域別直前オリエンテーション 実習施設紹介、誓約書記入、実習記録記載についての確認、事前課題提示、健康診断提出等について説明する。</p> <p>3. 各実習施設において、2週間(90時間)の実習を実施 実習初日: グループ毎の学内オリエンテーションを行う。 2日目~: 各実習施設で実習を行う(詳細は母性看護学実習要項を参照)。 実習最終日: 学びの成果についてグループごとにパワーポイントを用いて発表および学びの共有を行う。 各個人の評価面接を行う。</p>
能動的な学びの実施	<p>1. 医療チームの一員としての自覚を持ち、主体的に実習に臨む。</p> <p>2. グループメンバーとディスカッションすることで学びを共有し(カンファレンスに限らず)、実習指導者・担当教員へ積極的に関わることで学びを深める。</p>
授業時間外の学修	<p>1. 事前課題(7~8時間程度) ・実習前に自己の課題達成のために必要な事前学習を行う。 ・詳細な学習内容については、事前オリエンテーションで提示する。</p> <p>2. 実習中の時間外学習(毎日3~4時間程度) ・実習中に不足を自覚した内容や指導者・教員から提示された課題について学習する。 ・当日の実習内容を振り返り、翌日の行動計画を立案する。 ・受け持ち対象者の看護過程の展開を行う。</p>
教科書・参考書	<p>既履修科目である母性看護学概論、母性看護援助論 において使用した教科書・資料、学習内容、関連する文献等を有効活用する。</p>
成績評価方法と基準	<p>実習時間が充足されている者に対し、母性看護学実習評価表に基づき評価を行い、単位認定とする。</p>
課題等に対するフィードバック	<p>実習記録は指定された期日に担当教員へ提出し、評価面談にてフィードバックを得る。状況により実習時間内外で適宜面談を行う。</p>
オフィスアワー	<p>Campus Squareを参照</p>
留意事項	<p>・本科目の履修に際しては、母性看護学概論、母性看護援助論、母性看護援助論 の単位を修得していること。</p> <p>・実習先によってはワクチン接種(インフルエンザワクチン、麻疹ワクチン、風疹ワクチン、水痘ワクチン、ムンプスワクチン)を必須としている施設がある。アレルギーなどで接種できていない学生は7月下旬で行われる領域別実習オリエンテーションで必ず申し出ること。</p>

非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 実習施設の状況および感染状況に応じて実習の進め方は検討する。</li><li>2. 成績評価方法は変更しないが、実習評価表は変更する場合がある。</li></ol>
------------------------------------	---